

「葛飾区少年の主張大会」が
開催されました

平成26年11月22日、かつしかシンフォニーヒルズアイリスホールにおいて、応募総数426人の中から選ばれた小学生18人・中学生6人、計24人が、それぞれの主張を発表しました。結果は次のとおりです。

小学学生の部

最優秀賞

須山 凜(すやま りん・半田小6年)

「犬と共に」

外川 翔音(とがわ しおん・花の木小6年)

「戦争がない世界をつくるために」

優秀賞

神野 翼(じんの つばき・白鳥小5年)

「2020年のオリンピックはぼくらの手で」

渡辺 友宏(わたなべ ともしろ・道小6年)

「思いやりの大切さ」

津吹 寿花(つぶき しゅうか・上平井小6年)

「減らそう!もつたいない行為!」

山口 隼平(やまぐち じゅんぺい・綾南小6年)

「世界のために、未来のために、」

赤井 未奈(あかい みな・柴又小6年)

「本を読もう」

入選

永井 大裕(ながい だいすけ・末広小5年)

中根 萌花(なかね もえか・梅田小6年)

大和田 侑佳(おおわだ ゆか・本田小6年)

谷口 彩乃(たにぐち あやの・淡江小6年)

松本 花音(まつもと かの・宝木塚小6年)

鶴尾 日奈(つるお ひな・南綾瀬小6年)

根元 康太郎(ねもと こうたろう・中青戸小6年)

山口 真葉(やまぐち まま・小松南小6年)

菊田 皓雅(きくた こうが・奥戸小6年)
坂本 真理奈(さかもと まりな・鎌倉小6年)
前川 翔(まえかわ しょう・幸田小6年)

中学生の部

最優秀賞

松浦 舞香(まつうら まいか・綾瀬中2年)

「一歩踏み出す勇気」

優秀賞

天童 虹(てんどう にじ・堀切中2年)

「何気ない小さな行動で…」

工藤 謙真(くどう けんしん・四ツ木中3年)

「スマホ社会と向き合う」

入選

飯沼 楓(いひぬま かえで・立石中1年)

細谷 愛笑(ほそや まなみ・葛美中1年)

和田 響(わだ ひびき・葛美中3年)

(敬称略・同一賞内の順番は発表順)

地域教育課 (5654) 8482



中学生の部・最優秀賞

一歩踏み出す勇気

綾瀬中学校2年 松浦 舞香

去年の夏、私はクラスに始めず保健室登校の日々を送っていました。それは、友達から言われた何気ない一言に私の心は傷ついてしまったのです。

それから私は、いつもは気にしないようなことを気にするようになり、教室へ向かおうとしても足が進まず、気持ちも崩れて、そして、それが原因で学校を休むことが多くなっていました。

しかし、ある日、私に転機が訪れました。普段外出しない私が母に頼まれおつかいに出かけていた時、小学校時代の先生に出会ったのです。その先生は私の気持ちが一変するような言葉をくれました。

「自分が見たものを信じ、信じた道を進み、それでも辛くなったら君には戻って行くところがあるんだよ。」
「自分を信じて進めば良い。」その言葉は私を上げまし、支えになってくれました。そのおかげで、私はやっと教室に戻る決心が出来たのです。

しかし、時間が経ち二学期になっていました。その為か仲の良かった友達とは、距離が出来ていました。それを見かねて、あまり話したことのない友達が、こんなアドバイスをくれたことがあります。

「私もね、クラスに始めなかったよ?でもね、勇気出して声かけたら、友達出来てみんなと仲良いよ。だから舞香も勇気出してみなよ。」

でも、そう言われても、私は全く受け入れることが出来ませんでした。なぜならその子は、クラスの中で一番人気があり、私から見るとその子は、クラスになじめていたからです。そして、私はまた、保健室登校に戻ってしまいました。

その後の毎日は、何につけてもやる気がおきず、無駄に一日が過ぎていきます。そしてそのことに対して、何のあせりも感じていない自分がいました。

ある日、家で勉強している時、私はなぜか(このままで本当に良いの?)

そう思ったのです。きつとこの想いは教室登校が出来なくなつた日から、今まで胸の中にずっと存在していたのでしょうか。

しかし私は、周りが変わってくれることだけを期待して、自分自身が変わらなければ何の変化も起きないのだということに、気づいていませんでした。

あの友達が言ってくれたように、
「勇気出して声出して」みたいなと変わらないということにも気づいていませんでした。

それから私は、考え方や観点を変えてみようとして努力しました。次の日から、積極的に自分から声をかけたり、友達の言葉に素直に耳を傾けたりしました。

その結果、自然とクラスに溶け込めるようになり、教室へ向かおうとしていた足どりも軽くなりました。

きつと、小学校の先生や友達のアドバイスは、「自分から行動しろ」という私へのメッセージが込められていたのだと思います。

私が一年通して経験してきたことは何一つ無駄ではなく前へ進むための試練だったのではないかと感じるようになりました。そして、「誰もが必ず一人歩きをし、悩み苦しむ、そして、人は人を助ける。」という大切なことを学んだような気がします。

人間が取る行動の中には、いけないことも確かにあります。しかし、「何事も経験」で、その間違いを知り、そして直して私達は成長していくのです。

私は、これから、少しずつ前へ進み、成長できるような努力を積み重ね、自分の手で人を助け、支えになる存在になりたいと今、思っています。

※なお、最優秀賞の作文については、葛飾区ホームページにも掲載しております。